

堀本裕樹
句集『一粟』刊行記念展
「ことばの海で」

開催のお知らせ

会期 2022年4/15（金）～4/17（日）

13時～19時

場所：GOTTA kudanshita（東京都千代田区九段南2-2-8松岡九段ビル201）



俳人・堀本裕樹氏の句集『一粟』刊行を記念し、書家の華雪とともに
俳句と書で句の世界を表現する展覧会を行います。

第一句集『熊野曼陀羅』から約十年を経て発売される、第二句集『一粟』（駿河台出版社）。
収められた三四八句からは、堀本自身の軌跡はもちろんのこと、
それを読み、その句の世界に心を添わせたとき、私たちもまた、この十年を思うこととなる。

堀本は、あとがきに下記のように書いている。

書名である「一粟」は、「蒼海の一粟」という成句より得た。同時に拙句「蒼海の一粟の上や鳥渡る」を踏まえた。この成句は北宋の詩人・蘇軾が記した『赤壁賦』を出典とし、広大な青海原に極めて微小な一粒の粟が漂っていることになぞらえ、宇宙における人間の存在の微塵を譬えている。

一中略一

私という人間はこの宇宙において、一粒の儚い粟に過ぎない。大海の波間に漂い翻弄されながらも、生きていくしかない。

刊行記念展にあたり、書家の華雪に共演を依頼。
華雪は、漢字のなりたちや意味、文字の成り立ちを綿密にリサーチし、
現代の事象との交錯を漢字一文字として表現するアーティストである。

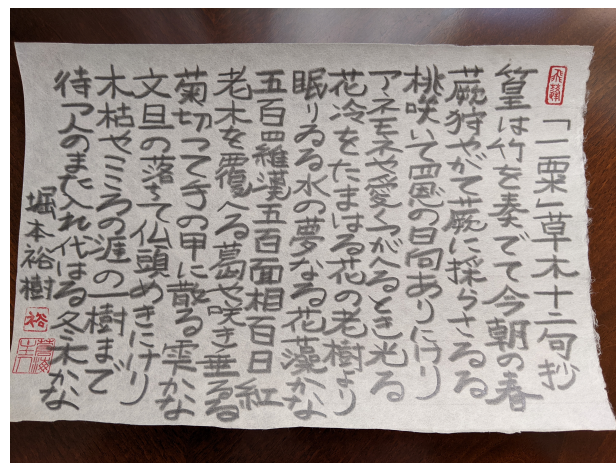
今回の展示では、『一粟』に描かれた自然の風景から会場を構成。

それぞれが『一粟』の中から句を選び、
華雪はその句を書くだけでなく、句からイメージする一字も表現する。
堀本自身も華雪との対話、手ほどきを経て、
自筆に初挑戦する。

俳人が自作の句を書くときに、何を書いているのか。

書家が他作の句を書くときに、何を書いているのか。

それぞれの手と筆を通して描かれた句は、
見る人に新たなイメージを広げる。



堀本裕樹



華雪

Information

感染症対策に配慮しながら、皆様をお迎えしますので、
ぜひこの機会にお越しください。

展覧会では作品、句集の販売も行います。句集はどの書店よりも早い、先行販売となります。
また、初日、4月15日（金）にはオンライン&オフライン イベント
「作らない句会」も開催いたします。

<トークイベント>

●日時：4月15日（金）19:00～20:30

「作らない句会」

●登壇者：堀本裕樹 華雪

●内容：堀本氏が句集『一粟』から選んだ10句から、参加者は好きな3句を選句。自分で俳句を作らなくてもよい句会です。上位に選ばれた句については、どこに魅力を感じたのか、感想を述べ合うというイベントです。題して「作らない句会」。気軽に俳句の世界を楽しみに、ぜひご参加ください。

●チケット

会場観覧（定員10名） ¥1500（お茶とお菓子付き）

オンライン視聴 ¥1000

チケットは下記 storesにてご購入いただけます。

<https://gotta-kudanshita.stores.jp>

●お問い合わせ：GOTTA九段下（竹田）080-4674-4035

profile

堀本裕樹

一九七四年、和歌山県生まれ。國學院大學卒。「河」編集長を経て、俳句雑誌「蒼海」を創刊、主宰。俳人協会幹事。第二回北斗賞、第一句集『熊野曼陀羅』で第三十六回俳人協会新人賞、『富士百句で俳句入門』で第十一回詩歌句随筆評論大賞を受賞。著書に『俳句の図書室』、『桜木杏、俳句はじめてみました』、又吉直樹との共著『芸人と俳人』、穂村弘との共著『短歌と俳句の五十番勝負』、『NHK俳句 ひぐらし先生、俳句おしえてください。』、千野帽子・長嶋有・米光一成との共著『東京マッハー俳句を選んで、推して、語り合う』、『散歩が楽しくなる 俳句手帳』など多数。

華雪

1975年、京都府生まれ。幼い頃に漢文学者・白川静の漢字字典に触れたことで漢字のなりたちや意味に興味を持ち、文字の成り立ちを綿密にリサーチし、現代の事象との交錯を漢字一文字として表現する作品づくりに取り組むほか、文字を使った表現の可能性を探ることを主題に、国内外でワークショップを開催。刊行物に『ATO跡』（between the books）、『書の棲処』（赤々舎）など。『コレクション 戦争×文学』（集英社）をはじめ書籍の題字なども多く手掛ける。